

---

# ご説明資料

---

令和元年12月  
防衛省

# 馬毛島における自衛隊施設の整備について

- 防衛省は平成23年以降、南西地域における防衛態勢の充実のため、自衛隊施設を整備するとともに、その施設において米空母艦載機着陸訓練（FCLP）を実施するための候補地として検討してまいりました。
- 先般、防衛省は馬毛島の土地の大半を所有するタストン・エアポート社から、**馬毛島の過半の土地を取得**しました。
- よって、本年1月末から3月末にかけて実施した現地調査等の結果、これまで施設整備するうえで問題となるような事項はなく、**現段階で自衛隊施設を馬毛島に整備することは可能**と考えております。

## 防衛省の方針

- 馬毛島に**自衛隊馬毛島基地（仮称）を整備**することとしたい。
- 今後、環境調査を再開し、施設整備の検討に必要な**測量・ボーリング調査等を実施**したい。
- なお、FCLPの実施施設としては引き続き**候補地※**との考え。

※ FCLPのための使用については、米軍の運用に適当か検討のうえ、米国との協議が必要。

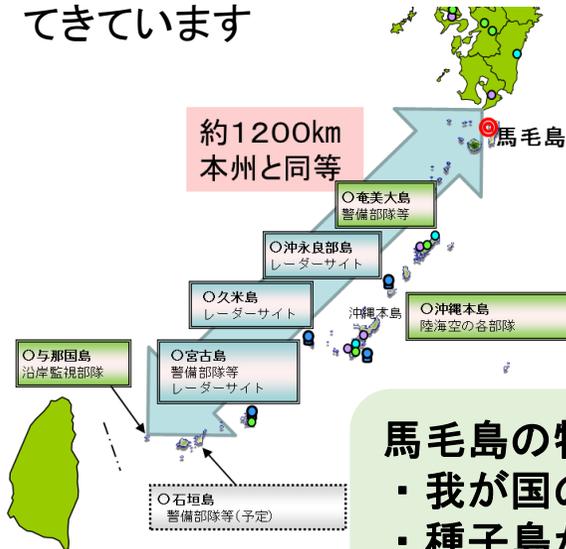
- 防衛省として、**地元のご理解、ご協力を得るための努力を進めさせていただきたい。**  
→ 今後、議会や住民の皆様に対してもご説明させていただきたいと考えており、ご協力をお願いしたい。
- 今後の調査の実施について、ご理解いただきたい。
- なお、市有地については、市が考えられる活用方策についてご相談させていただきたい。

# 馬毛島に自衛隊施設を整備する必要性

- 我が国を取り巻く安全保障環境は格段に早いスピードで厳しさと不確実性を増しています。
- 我が国の周辺には、質・量に優れた軍事力を有する国家が集中し、軍事活動の活発化の傾向が顕著となっております。

## 我が国島嶼部に対する攻撃への対処等のため南西地域に自衛隊の活動拠点を整備

- ・ 南西諸島は南北に長大だが、自衛隊の施設は限られており、自衛隊配備の「空白地域」になっています
- ・ 緊急時の活動拠点、平素の訓練拠点が必要となってきました

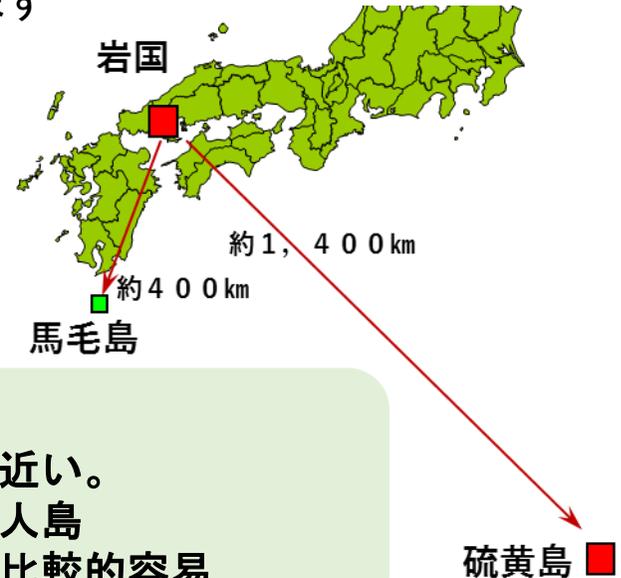


### 馬毛島の特性

- ・ 我が国の南西地域に所在し、岩国に比較的近い。
- ・ 種子島から12キロ離れており、現在は無人島
- ・ 平坦な地形であり、滑走路等の施設建設が比較的容易

## アジア太平洋地域における米空母の活動を確保し、日米同盟の抑止力・対処力を維持・強化

- ・ 米空母がアジア太平洋地域で恒常的に活動するためには、FCLP施設が我が国に必要です。
- ・ 硫黄島は配備地(岩国)から遠く安全性が問題となっています



自衛隊馬毛島基地(仮称)ができれば、我が国の平和と安全に非常に大きな意義があります。大規模災害発生時には、この地域における救援活動が、よりの確に行えるようになります。

# 馬毛島における自衛隊施設利用のイメージ

- 馬毛島基地（仮称）は、自衛隊が普段は主に訓練場として使用し、災害等の緊急事態には人員物資の集積展開拠点となる。さらに、FCLPに使用することを検討しております。
- したがって、**年間を通じて自衛隊が管理し、大半の時期を自衛隊が使用**することになります。
- 要員の配備規模や訓練計画は今後、具体的に検討。改めて地元の皆様に説明させていただきます。



自衛隊による訓練の内容は①他の地域からの展開訓練、②島嶼防衛のための訓練、③災害対応のための訓練などを検討。（以下はイメージであり、今後の検討次第で変更があり得る。）

- ・機動展開訓練  
F-35、F-15、F-2などの戦闘機



- ・不整地着陸訓練  
C-130などの輸送機



- ・離着水訓練  
海自救難飛行艇US-2によるもの



- ・空挺降下訓練  
輸送機から陸自隊員がパラシュート降下



- ・ヘリボン  
ヘリにより陸自隊員が展開



- ・物料投下訓練（物糧傘投下訓練）  
輸送機等（C-2、C-130、P-1、P-3C）



# 馬毛島基地（仮称）の施設の例

○ 具体的な施設の配置計画は今後の調査を踏まえて検討してまいります。

滑走路



鹿屋飛行場

管制塔



庁舎



格納庫



隊舎



火薬庫



倉庫



燃料タンク



宿舎（種子島に建設を計画）



※このほか、港湾施設などの整備も検討

# 今後実施する調査のイメージ

## ○ 環境調査（季節ごと）

- ・ 陸域調査：動植物の生息・生育状況の調査
- ・ 海域調査：周辺海域におけるサンゴ類や藻場の生息・生育状況の調査



## ○ 気象調査（月ごと）

今後の施設配置の検討に必要な気象データ（風向・風速、温度、雨量、雲高等）の観測



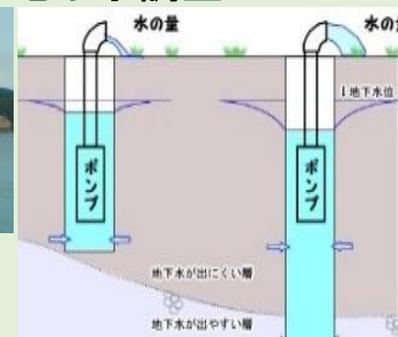
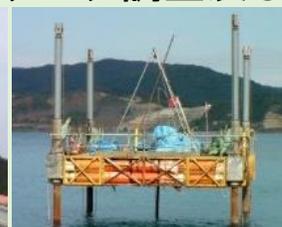
## ○ 測量調査

陸域と海域の現況を把握するための地形測量、深淺測量等



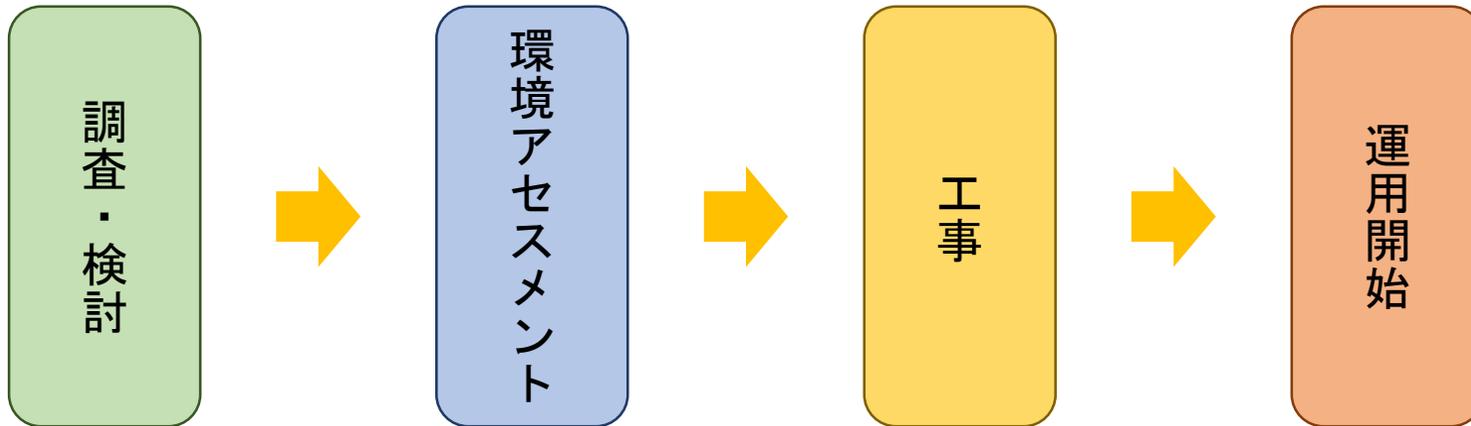
## ○ 土質調査・地下水調査

地盤の状況を確認するための陸上及び海上におけるボーリング調査及び地下水調査



## 今後の流れ

- 施設整備に要する期間は、今後の検討によるため、現時点では確定していませんが、作業は以下のような流れとなることを想定しています。



## 地域の住民の皆様の生活に与える影響について

- 航空機騒音

訓練等の実施に当たっては、航空機騒音等の影響をできる限り少なくするよう配慮します。

訓練時の飛行ルートの設定に当たっては、可能な限り種子島及び屋久島の上空を飛行しないルートとなるよう調整します。

- 漁業

漁業への影響を極力低減できるよう今後検討を進めます。

それでもなお生じる影響（例：港湾整備に伴うもの、島周辺の保安水域の設定に伴うもの、周辺の訓練水域の設定に伴うもの）については、実態に照らして適切な補償を実施する考えです。